

# 8月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

30年8月のD I 値は8指標中、6指標が上昇。特に「売上高」「収益状況」においては2桁の大幅な上昇。「設備操業度」「雇用人員」は横這いであった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

板金・解体・電気工事業では仕事の受注が順調であり、貨物運送業においても飲料品関係の荷動きが堅調であった様子。また印刷業や食品製造業においても、出荷量・受注量が少しずつ上向いてきたとの明るい報告も寄せられた。

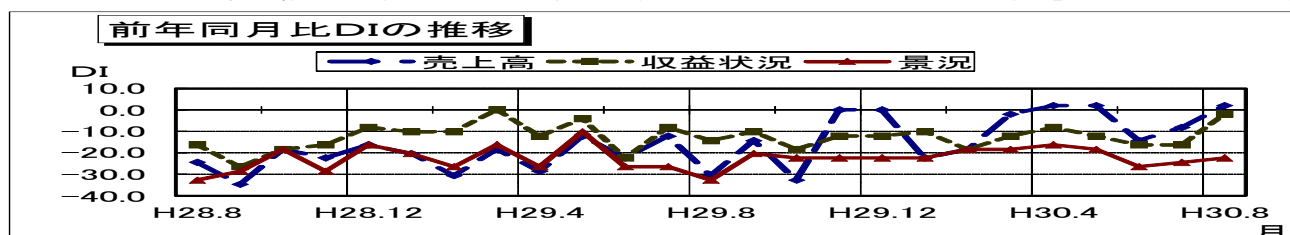
一方、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に加えて、猛暑や台風の影響による売上高の伸び悩みを嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

|       | H29<br>8月 | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | H30<br>1月 | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 前月比<br>増減 |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 景況    | -32.7     | -20.4 | -22.4 | -22.4 | -22.4 | -22.4     | -18.4 | -18.4 | -16.3 | -18.4 | -26.5 | -24.5 | -22.4 | 2.1       |
| 売上高   | -30.6     | -14.3 | -32.7 | 0.0   | 0.0   | -22.4     | -18.4 | -2.0  | 2.0   | 2.0   | -14.3 | -8.2  | 2.0   | 10.2      |
| 収益状況  | -14.3     | -10.2 | -18.4 | -12.2 | -12.2 | -10.2     | -18.4 | -12.2 | -8.2  | -12.2 | -16.3 | -16.3 | -2.0  | 14.3      |
| 販売価格  | 4.1       | 0.0   | 10.2  | 16.3  | 12.2  | 20.4      | 8.2   | 18.4  | 10.2  | 4.1   | 4.1   | 6.1   | 8.2   | 2.1       |
| 取引条件  | -6.1      | -6.1  | -4.1  | 0.0   | -4.1  | -6.1      | -8.2  | 0.0   | -2.0  | -2.0  | -6.1  | -8.2  | 0.0   | 8.2       |
| 資金繰り  | -8.2      | -10.2 | -10.2 | -8.2  | -4.1  | -2.0      | -8.2  | -6.1  | 0.0   | -4.1  | -8.2  | -14.3 | -12.2 | 2.1       |
| 設備操業度 | -8.2      | 0.0   | -6.1  | -2.0  | -2.0  | -2.0      | -4.1  | -6.1  | -6.1  | -4.1  | -6.1  | -8.2  | -8.2  | 0.0       |
| 雇用人員  | -12.2     | -12.2 | -18.4 | -12.2 | -14.3 | -14.3     | -18.4 | -20.4 | -18.4 | -16.3 | -14.3 | -14.3 | -14.3 | 0.0       |

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## 【景況関連の報告】

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前年同月比みその生産量は98.0%、出荷量は100.3%となり上向き。しかし主要原材料の米の価格は国内産、米国産とも高値で推移しており依然コスト高である。主力の御膳みその生産量及び出荷量は前年同月比で95%以上をキープしている。また、みそ全体に対して25%前後のシェアで推移している。

#### <繊維・同製品>

2. 縫 製・外国人技能実習に関して、新制度の体制整備が不十分（日本国と外国との認識の相違である）煽りを受けて、3号の入国がスムーズに進まなかったため、生産性に影響が出ている。相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材の獲得が大きな課題である。売上、収益については、夏場は低調推移傾向が近年常態化している。頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは特に夏場は相当厳しい。

#### <木材・木製品>

3. 木 材・業界的には非常に落ち込んでいる。来年、消費税が上がるというのに、カケコミ需要もなし。
4. 製 材・一部に災害復旧の需要があるものの、依然として製材品の動きが悪く、厳しい状況が続いている。今後の秋需に期待するしかない。
5. 木 材・原木入荷量は依然少なく、価格は強含みに展開しているが取扱い数量が前年比5%前後減少している。合板、製紙用木材等の需要は旺盛であるが、一般建築製品需要は厳しい状況が続いている。

#### <印 刷>

6. 印 刷・8月はもともとお盆などで休みが多く、稼働日数が少なく売上の上がない月である。全国的に話題となった阿波踊りだが経済的にはマイナスに働いた模様。地方は先行きの不透明感が強く、なかなか景気上昇には繋がってこない。また、今年9月の実働日は18日、8月より短いお客様とのスケジュール管理、調整に気を配らなければならない。
7. 印 刷・春以降業況は良くないようだが8月になり若干受注が上向いてきたようだ。ただ、全ての印刷会社が上向いたわけではなくまだら模様である。また、暑さと大雨の影響により厳しい温度湿度管理を要求する設備の稼働率がダウンし月間生産高は上がっていない。少しずつではあるが運賃の値上げを商品価格に転嫁することに了解を得られる様になってきた。

## <窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・8月も昨年同月に比べて約15%以上の出荷量が減少しており、昨年度と比べて5ヶ月連続のマイナスである。原因としては、お盆休みで出荷日が少ないことと、工事の減少があげられる。一方で、セメントや骨材価格も値上りしており、今後に影響してきそうである。
9. 生 コ ン・8月の出荷数量は、対前年同月比5%の微増となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して高温時期が続き官民での新規新設工事が少なかった事が影響している。今後の出荷数量については、秋口からの新規工事受注が見込まれ、数量的には前年並みを予想している。

## <鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・業況に大きな変化はないものの、一部売上や引き合いの増など、景況感の改善の兆しも見受けられ、景気の回復が期待される場所である。なお、引き続き原材料価格の上昇、人材の確保にも苦慮している。また、海外経済の不確実性、台風など自然災害による影響が懸念される場所である。
11. ステンレス・引き続き大手を中心に設備投資が行われているが、中小企業については様子見の状況が続いている。国内外ともに目立った大きな変化は無いが、台風、地震等の自然災害による影響が多少懸念される。

## <一般機器>

12. 機 械 金 属・全体として、景況感に大きな変化は見られず、売上高や引合いなど良好な水準を維持している。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、従業員の確保難をはじめ、原材料の不足、原材料価格等の上昇などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

13. 食 糧 卸・30年産の作況が心配。

### <小売業>

14. ショッピングセンター・7/31で組合員の1店舗が退店となり、売上高は全店計94.3%(既存店96.9%)、客数は92.5%(93.6%)。これで30坪以上の売場が4店舗空きとなった。退店がある毎にリーシング活動を行なっているが、なかなか進んでいない。現在も1社に入店を打診しているが、先方にも適正面積があるので「〇〇坪の売場が空いたからそこに入って下さい」では話が進まない。既存の店舗に移転をお願いして先方の希望する売场面積を確保する必要がある。空き店舗をそのままにしておけないので、ゲーム機を置いたり、遊具を設置してちびっこ広場にしたり、自由教室と称して子どもに自習をってもらう部屋を提供したりしているが、これらでは家賃収入に繋がらない。当組合が直面している最大の課題は「空き店舗対策」になっている。

15. 電気機器・エアコン・冷蔵庫等、季節商品の買換えも一段落し、昨年と同様のペースに戻った。今後は4K・8K実用放送開始の映像関連商品の販売に期待か？
16. 量小売業・8/10まで一般家庭の仕事はきわめて少ない。暑さのせいだと思われる。盆休み明けも低調。新築現場の仕上がりも暑さのせいか全体に遅れている。9月以降涼しくなってからに期待したい。
17. プロパンガス・先月に引き続き、消費機器の交換期限が迫っているため、期限切れの無いよう、順次交換を行い、保安点検に努める。

18. 機械器具・本年の天候不順により、全国的な売上減少が見られる。  
〈商店街〉

19. 徳島市・徳島の祭り、阿波おどりも今年は不評が多く、それに伴い人混みもなく低調。また異常ともいえる暑さで人の動きは更に厳しく、各イベントをかかっているがサービス業などは動きが最悪だった。

〈サービス業〉

20. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務は1年間で、年度初めの4・5・6月 年度中後期の11・12・1月に忙しい。8月、9月は工事、業務等の発注も7割がた終わり、落ち着いている。去年度とさほど変わらない。官指定のCADソフトが、CAD 'Well → V-nasに移行。8月契約、34基-¥240万（リース方式）。年度予算には組み込んでおり、マイナス決算になるかも？台風が今年は多く接近上陸しているため、道路、河川において、応援体制、特別巡視に担当技術者が夜間、休日に出勤しており、残業代等が多く必要。（官側は変更対応なし。3日連続の場合のみ協議し、人件費の変更増額となる。）

21. 自動車整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比1.6%の1,217台、中古車は6.1%の438台、合計では2.7%の1,655台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比4.3%の977台、中古車19.3%の426台、合計は8.4%の1,403台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比5.3%の3,058台と微増。売上高、収益状況ともに例年並み。8月はお盆休み等で稼働日数が少ないため1年間で最も売上が落ち込む時期。

22. 旅行業・8月は台風などの影響でキャンセルが多く、また猛暑が続いたこともあり、お客さんの動きも鈍かった。

〈建設業〉

23. 建設業・西日本建設業保証(株)徳島支店によると、8月末の公共事業の統計データでは、請負額ベースで562億円、で対前年比11.2%増となっている。これは、大型工事の発注があったためであり、地元企業の景況感は悪い。また、地域格差があり、鳴門地区約40%減、那賀地区11.7%減となっている。

24. 電気工事業・新設住宅口数は312件であり、対前年比193.7%と大幅に増加した。

25. 板金工事業・仕事量は順調に続いている。

25. 鉄骨・鉄筋工事業・暑さ、盆休み等で若干「操業度」が落ちているが、ほぼ前月と同じ。

26. 解体工事業・戸建ての住宅の解体案件が多くなっている。木造の解体工事業の新規参入が増えてきている。

## <運輸業>

27. 貨物運送業・飲料品関係は、全国的な猛暑で飲料品を中心に増加。毎年、お盆休暇による実働日数が減少するが、飲食関係は前年並みで他の取扱品と比べて好調。生鮮野菜は荷動きが少なく、前年よりも低調。軽油単価は、海外の市況を受け値上がり。今後も値上がり基調である。
28. 貨物運送業・軽油価格が上昇を続けている。さらに大雨、台風による被害や運行不順によりコストがかさみ、事業者を悩ませている。